



やまばと通信



2021.9.1発行
第 245号
多摩市立図書館
042-373-7955

10月27日～11月9日は読書週間です

皆さん、秋といえば何を思い浮かべますか？芸術の秋、食欲の秋、スポーツの秋、そして、読書の秋です！今回のやまばと通信では読書の秋にゆかりの「読書週間」についてご紹介します。

【読書週間について】

終戦の2年後の1947年（昭和22年）、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに、第1回「読書週間」が開催されました。

第1回の「読書週間」は11月17日から23日。これは、アメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」にならったものです。各地で講演会・図書に関する展示会が開かれ、その反響は大きなものでした。「一週間では惜しい」との声を受け、現在の10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）となったのは、第2回からです。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。その一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まっています。

本年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりの読書への関心と、読書習慣の確立の契機となることを願ってやみません。

※公益社団法人 読書推進運動協議会HP (<http://www.dokusyo.or.jp/>) より

【読書週間の取り組み】

2005年（平成17年）に成立した「文字・活字文化振興法」により「読書週間」が始まる10月27日は「文字・活字文化の日」に制定されています。

活字離れに歯止めをかけ、文字・活字文化についての関心と理解を深めるための日として、全国各地の図書館や書店で様々なイベントが行われています。

今年の読書週間の標語は「最後の頁を閉じた 違う私があった」です。
この読書週間に新しい本と出会ってみませんか？



多摩市デジタルアーカイブ

～貴重資料を紹介します!～



← デジタルアーカイブへの
アクセスはこちらから

多摩市デジタルアーカイブでは、今まで公開できなかった錦絵などの貴重な資料をデジタル化し、高精細画像で紹介しています。

江戸時代の浮世絵師 歌川広重(安藤広重)の錦絵「武蔵多満川」は、富士山が見える風景を描いたシリーズで、広重最晩年の作として広重死後に出版されたものです。描かれているのは日野の渡し付近とみられ、手前に柳の木と橋、奥に渡船の風景が描かれています。また「武蔵調布之玉川」には調布の玉川を描いた部分で、藤原定家の和歌「たつくり(調布)や さらす垣根の朝露を つらぬきとめぬ 玉川の里」を記し、川に布をさらす女性の姿を描いています。



「武蔵多満川」

これらの作品は以下の資料でも紹介されていますので、ぜひ他の作品とも見くらべてみてください。

『歌川広重富士三十六景(謎解き浮世絵叢書)』請求番号 721.8

『広重TOKYO一名所江戸百景一』請求番号721.8

『歌川広重一日本の原風景を描いた俊才絵師(傑作浮世絵コレクション)』請求番号721.8

中央図書館整備だより

第9話「木工体験講座」

中央図書館建設の際に伐採した樹木を有効活用する「中央公園のみどりの記憶をつなぐプロジェクト」の一環として、7月31日(土)・8月1日(日)にグリーンライブセンターで木工体験講座「つくってあそぼう!木のおもちゃづくり」を実施しました。

本イベントでは、令和3年4月10日(土)に行われた中央図書館の樹木伐採起工式の際に切り出した伐採木の枝を使用して、ぶんぶんゴマとぐるりんカーを作成しました。2日間で計109名(小学生以下の方58名・同伴の保護者等51名)の方にご参加いただきました。パーツを紙やすりで磨いた後、自分の好きな色で絵を描いて組み立てる作業を、みなさん熱心に取り組みながら、オリジナルのおもちゃを完成させました。完成後は自分の作ったおもちゃで楽しそうに遊び、笑顔あふれるイベントとなりました。

多摩市立図書館では、令和5年5月の開館を目指して、中央図書館の整備に取り組んでいます。「中央図書館整備だより」では、中央図書館の新しい取り組みにスポットを当てて紹介していきます。



©Yuriko Yamawaki 1971

へなそうるのへや



©Yuriko Yamawaki 1971

～メルボルン子ども文庫からのおくりもの～

渡辺茂男さんは『しょうぼうじどうしゃじぶた』(山本忠敬/え、福音館書店)、『もりのへなそうる』(やまわきゆりこ/え、福音館書店)などの著者であり、『エルマーのぼうけん』(ルース・スタイルス・ガネット/さく、ルース・クリスマン・ガネット/え、福音館書店)、『どろんこハリー』(ジーン・ジオン/ぶん、マーガレット・プロイ・グレアム/え、福音館書店)などを翻訳した児童文学作家・翻訳家です。

昭和40年から多摩市桜ヶ丘(当時は南多摩郡多摩町)に住んでおり、平成18年にお亡くなりになるまでに300冊以上の子どもの本を出版しました。

桜ヶ丘のご自宅を処分される時に、長男の鉄太さんから「茂男さんの著書等を多摩市の子ども達のために活用して欲しい」とのお申し出があり、約200冊の本を多摩市立図書館にいただきました。

その他にも茂男さんが仕事に使われていた机やタイプライター、机のそばに置いてあったメモや写真、鉄太さんら息子さん達が愛用していたおもちゃなども寄贈していただきました。

その茂男さんゆかりの品々を中心に展示するコーナーが、平成26年に「へなそうるのへや」として図書館本館に誕生しました。

茂男さんの著作の中でも『もりのへなそうる』は、茂男さんが息子さん達と多摩丘陵で遊んでいる時に生まれたとても愛着のあるお話だとお聞きし、「へなそうるのへや」と名づけました。

令和5年に開館予定の中央図書館では、「へなそうるのへや」がリニューアルされます。現在のような壁で仕切られた部屋ではなく、書架を壁のように使用することで特別な空間を作りながら、物語の世界観を演出した誰でも入りやすいコーナーを目指しています。

「へなそうるのへや」は鉄太さん主宰のメルボルン子ども文庫(オーストラリアで暮らす子ども達に日本語の物語や文字文化に親んでもらうための活動)と多摩市立図書館をつなぐ部屋でもあります。

年に1～2回、企画展示も行っていますので、中央図書館に移動する前に、ぜひ一度、本館の「へなそうるのへや」にも足を運んでみてください。へなそうるがみなさんをお待ちしています。

昨年度の展示の様子



パスワード・メールアドレスを登録してみませんか？

パスワード・メールアドレスを登録すると図書館の利用が便利になります。

図書館での予約受付時、予約資料貸出時などに窓口で、職員がパスワードの登録・メールアドレスの登録についてご案内させていただきます。

登録をご希望の方は図書館の職員までお声かけください。

※登録には利用者カードと本人確認ができる証明書（健康保険証等）が必要となります。

■パスワードを発行すると…

ご自分のスマートフォン・パソコンなどから図書・雑誌の検索・予約・電子図書館等がご利用いただけます。

また、予約した図書・雑誌等の確認、返却期限の確認・延長等（次の予約がないもの1回のみ・借用資料は除く）ができるようになります。

※多摩市に在住・在勤・在学以外の方は利用できるサービスが異なります。ご注意ください。

■メールアドレスを登録すると…

予約した図書・雑誌等がご用意できた時にメールでご連絡します。



ぜひ、この機会にご登録ください！

蔵書点検へのご協力ありがとうございました！

5月25日～6月29日の間、多摩市内の図書館を順次休館し、「蔵書点検」を行いました。皆様、休館の際にはご不便お掛けし申し訳ありませんでした。

蔵書点検とは、「図書館の蔵書がきちんと館内にあるか」を調べる作業です。

蔵書点検の作業は、館内の本一冊一冊を所蔵データと照らし合わせ、所在状況が一致するかを確かめるものです。一致しないものについては、館内を探すこととなります。この一連の作業を行うため、図書館は休館となりました。

今年度の蔵書点検から、ICタグを導入した方法に変更し、従来は5日休館していたところを4日に短縮しました。



写真は、ハンディターミナルで蔵書情報を読み取っているところです。